宝物集　上　（正保五年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

寶物集

上

共同研究

長圓寺

61 B 216

宝物集上

長圓寺

あり給へるそなへて鬼界ヶ島の乃わりを海のしを
中〳〵ゝてむつかしかりけれ　おもひつゝ書つゝ
つゝ中世に成ぬ世の中もいとうかしかりし海の
き事はいとゝ多かりけれ　天竺へ渡り給へんひと
さうもあるへきかとて　佛と申てまつるハ教主釈迦
如来ためし報恩経とて　仏の天竺の
ひと優婆夷　乃わ
前羅摩　赤梅檀

天竺へ渡りの時せんだんの佛　釜鉢水精乃
乃ゝまてゝ　我ハ八十年の春　涅槃に入給
せんだん乃仏ハ末代の　ありてゝ
乃ゝきゝ　乃ゝ
乃ゝ天ゝ　乃ゝ
乃ゝ二月十五日　中門
乃ゝ　乃ゝ
乃ゝ　乃ゝ
乃ゝ　乃ゝ

おもふにあさましきなりけりまことに早く菩提へ
おもむかんとおもひてこそ道をもとめさて悉達太子も月日のつき
てみやまにいりてよたびかはり給ふまでそのあひだかたちのみあまり
稲麻竹葦のごとしそのつきものちにいたりて阿私
大恩教主釈迦牟尼尊上大覚世尊滅罪生善浄飯
念仏往生極楽と申しおしへて浄飯王のひさとに
まかせられても胃のあまりあまりまかせ給ひてく
ありさまのあはれさもあはれにかなしくおもふ
まことに老少不定浄飯王のおんおもひもはかなく
まかりけれはかなしくおもひたまひて月をなかめつつこそ
はまのうへにてかなしくおもひけれはなみたをなかして

あるへのちからはべりて人のかたなしの其一の宝をそのあり
むかしをそそひけれは人あしくかくし一義を以て禅まて第一
の宝をさとりし地をもて心をさ海の…てより文殊し
きんすもおかまし八まんのの宝にはおのこさいてさは
ちうへさしかくて地を神のよつまつてうへの地を給えん
せうかやへさされはたく菩へまてしそのまきこれをそはうへ
二人は是にて方をゆしょ金を見るにかうかして是をそそう
はかりつまし海ののはしそ是をは日月のひかりをもし
又も天知地知母知我知まりのしま命をまもるにてはたかを
もろてうたひへるもかかちやうのは宝をのみ知をこうる
といひしかりし死人はひとのふるきをかかるまてをもか

折岩ハ抱宝

佛坑中ノ金ヲ毒蛇持ル事

五

つとく毒蛇のりとれとあるを取りて大
毒蛇のりとりけこひのよわるを人をまたんく蛇よわるを
食ものあとをとろこひてらるはしるものはけよきを
しやきれくめしけまくかなりしはをまつをあり
ゆくゆくりそわるんとて貴をうゆるゆるとて仏乃
毒蛇とりのひしをは思ひ合せけるみるの第
親のりとりをくくゆ百あ乃金をゆくゆるみち
て水のゆ百あ乃金をすてけるを見ふゆへよ
するをとひをは水のくゆりける我代食
をとりるゆへよ悪んあるるのゆ百あをるひ
をてゆあよゆるるし思よ一食をるゆるは食ハ

断金ノ交リ

うてしをゆるゆるのよ捨るりるゆ百あをは見
滅をるして我代世を救して百あをるひゆ
あるゆるして思ひつるて用くゆ捨てゆりよあ代
をを断金乃樂るりくゆるは金をを宝ゆ
をるるひよゆるるを宝ゆるる人貴華数強るい
一切乃たるれゆよ如意宝珠すれるるを見乃
海るに乃のるゆを取て八又穀七宝ゆ金
るるるゆは稲稗穀ゆ人乃現世をゆの八薬代
稗ゆるを一度世を乃の者八稲を稗ゆるるる
とゆるるるを乃ゆは稗ゆるれるるは
乃るゆしるのゆるを乃ゆは稗ゆるれゆ

金ハ借てき物なりといへば又それはさうか人乃つまく出る
宝なるとうすゐの世の凡夫ハ玉を宝とし知らすれこ
とおみてゐまくもるれさまに弘法大師も玉みて
まれく光引しきうれたば石尾とはこそ御さま出
御さまとば光まの宝も無常し清らく物を思ふハり
〇みな本来乃宝なりしま故ハ人ありてさをもとすハ
貴賤賢愚にもよらざる髪ハ白くなりぬきれゐハ
なくし額ハ四海の波を寄すみ眉ハ遠山の霞を
なし骨こりて腸りしまうてわすれらひかくなり
万のまがたれさまは天竺の大王ハかしめて白銀をすら
我がのをは炎魔王乃一處の使ゐきたりとて山を跡

して行ありき震旦の白居易ハ四十六のとしかゞみ
を鏡にうつして鬢をかゞしてあまさを嘆ひき又大聖
世尊乃八十わまりにかゝり給ひて滿月乃尊容おと
ろへ三十二相乃御かたち衰へ給ひ又凡夫にかへりて優
婆延ともに涅槃に入かひの〵しみを歎くに仰り字れ
ましや末代乃凡夫ハいつ〵くもけりをあしつへき
まは此所を待るもはかなきことなり生死を超ゆ
やへし

昔為京洛聲花客　今作江湖漂倒翁

とはつまり文なり
それらはみなせなまし世中に

孟宗

ありとはいとゝ人もなけれども
うゝ程く遠のけどゝ人ゝうゝ
老母の森れの為にとて
ゝりとて孟宗ゝ
世ゝ八老をなげさやはせ
ゝてゝ老のゝゝゝゝゝ形をゝ尺ゝ八母を
ゝゝゝ人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ人ゝの母ゝ釈のゝゝゝゝゝ
ゝゝ孟宗ゝゝゝ人ゝ釈ゝゝ老ゝゝ
ゝゝ病ゝゝゝゝ月ゝ未ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

伯瑜

ゝゝ八月ゝ婦ゝゝ尺母ゝ今ゝ竹ゝ
林ゝ雪ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ男ゝゝゝ老ゝゝゝゝ雪ゝゝ
ゝゝゝゝゝ竹ゝゝゝゝゝ雪ゝ中ゝ
ゝゝゝゝ釈ゝ病ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
伯瑜ゝゝ人ゝ母ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ものさし一束のりさげて今こゝにあてなれば中山を
と問給れて伯瑜うつもくつてゝ望よりつけり
海の杖ハ月にしてゝいさりきどもを杖ひとを後
をのひらをやうに杖ハ杖つむ事のしるしとつ
母の恩をすくはりあるゝ中山をこゝにあ
ひたるよわゝひとをひけるあるこなりに
丁蘭ハ木母郭巨ハ金の鍋白幸ハ中を後王祥ハ魚
の魚みなを孝養のあるしるし丁蘭ハ母をせこ後
をめぐらしをとゝ木像ようていさたりしに付のこ
とくなほあゝしく郭巨ハ地をほりあつひとをて
るしるあるを山の中にいるをは天乃わりを

尺ひろく金の鍋をかりおとるをかりしを白幸ハの
さむるをとをて宮殿を金をぬきしに事わりを
祥ハ氷の魚をぬきしに事わりを
て氷のをさりけるをはをぬきをとるをみ
はをさりをおりをしるの事い海ふ
蒙求孝子傳のとゝのみを尺をあるをみを大
國の事し吾朝をもをうれをあるをいたり拙の
大臣とやけるを人帝をりの西つをひを唐へをり行ふ
をりをるをあや拙をもあ菓をとをををを力ふ畫
紙をを貧ふ焼蒼をいふをををををををを焼
蒼鬼をいふ者をつけををりをふをををを弱の宰れ

難大臣

我元日本花京洛
汝是一家同姓人
為子為爺赤色恥
隔山隔海憑情義
經年流浪逢蓬萬
遂日馳思蘭夢親
形破他鄉作灯魂
弟飯菩提寄時日
トモヒビヒヒハヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

とゝ中人の乃の子伯父てうの子ら多く所四方の波浪を
あのきて振旦まして所りて見ゆ者ハ大臣殿とゝ
うしてゆいとらひ思くかくそ書給ひ今
形破他郷成灯鬼　爭飯舊里寄斯身
堂と見ゆ子ら四子乃の中ゆうりうらひ給ふ
て唐乃みとゝかうひけまりて日本へ申しまゐ
ゆり給つりまにわ申むへらゝ此波浪をうけく
唐まてらひへりゆんや山りゝ給うしへ海りて
ら給らましへわまりけるゝ女の俗を
ゝうしあせくかのゝ給事をしてゝ
と一の布施すしゝ給みまハくそ後く入給

むうしゝ給りけこにらてすへゝ
ゝまゝ給りゝ給ゝ給ゝ給ゝ給
給まハゝ給ゝ給へし親乃孝行給ゝ給ゝ給
けるゝ給ゝ給ゝ親ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給
ゝ給
給りゝ給まハゝ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給
給ゝ給へ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給
平乃孫仲乃ゝ給
思ひ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給乃
給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給ゝ給
給の給房乃中ゝ給の給

奉 良郭 百子 閑月 十寺子

夜ごろを経て一年と成りぬん
ゆきつりて那由と知りぬよ
中納言かりみるをいの事
ひとりを山地ひつてそなりけり
ひとりや苦の下ろ枝くらん
昔今の人くるふんこ海く歌うのしむまし
おわくこんん人乃雅う思ひるふおされてみかくんん人ハ
神くれるし後世まてを宝くの海々ゆそわる人さ
奉乃良郭とくみ人と仏用みとくみのと二人を炎魔
王方よめくとまて作くのおれろさをたくされろ
お良郭ハゆとろ海かり冥途とをゆ海つさ者あり
そそくとを及仏用みハをろ人さゆとをくさ沢
ものりてたちまちよ地くへおくゆきみ仏仏
雑を見てたをとりまよわさ海くさ後鬼乃あち
ちよまひのの世雑仏よひてをりの人を佛
作けくの海くさ沢の世てを罪業おりを海
き後鬼乃報とくを海と人をくたろお苦とを
けろ海人よくのみとくを海をそのひくろ者ひくを
を大目連ゆる母の者提女の後鬼乃よおち仏ひく
と僧をとろくくをつくちのひく功力おりて母の
仏をくを海ひきあまハ盂蘭盆絶よ海ふ人くた
ゆとひそれをみそはあろ人乃契をてみかくの宝物と

打父
罵母
報
閻王

乃ものとも人ことふ孝養乃ふうを行ひ人のまの乃親の
たのふを犯するとをかくかみ仲文章とかく又ふ人
をうり釧嘯とつの父をうらーふ妻蛇その子を
すう又閻魔とつ若母をのりーふ天のかろ神あら
てその子をうく又摩訶陀國乃ひ婆世主ハいまゝ太
子してあつ海ーけつ時父乃頻婆娑羅王をほー
うーをもくは伝をうんとて機よりをれた
まひ父をハは母乃韋提希夫人をみのひく座
う殺くまうのとつあをぬうものひて太子かめ
を生をり殺ふひうーを太子ものひくくをうり
うをうんとけるらの命をたけうとて劍をぬき

のひく韋提希夫人をいせんとものとと者婆月光とて
二人の大臣太子にかくく父をころひの一万八千人ありて
をころものハまゝ字をろひ母の命をたすけのひ
ハ二人の大臣ひ人をーーとせーけをハ母乃命をうりを
たすけのひぬ父太子をはひるかりうーのーとみ
貧苦のあ者ハ子と牢ーのひくかーいのこかーひわ
いるけのさ子をすてうねて冥途よりいけ時ハむく
うーをうをうをけるをかきうかーいの濁流のさ海
たをかーすくうれく赤六天の魔王一切衆生乃仏性よ
つむりをうをうんとて素をくかをとかをハ歌とかし
ひるかわひ恒伽川乃かりかうーき女人のさうの山

命宝

事あり仏雖佛よりゆへとこひもとめて仏のあくけ安
らちはゆりしけるたうしゑの子罪とはゆへよろ
ろのつふをのそうむそこはるりはこはをと
寿こはるこ仏ハ命ものすれこ宝ものしはこ六の
まれ寿命ものしりて人を寿成と命のあれすれ
ときのりりおせんあんの燈のりのあそこ
ゆしこハ天山の月りこゆをあくおこ

放逸のやとこのあ

こるまこのやとこるこん

こりの山てゆ月をこく

浅鬱の漢武の作ひて天山の月をゆくこり鈴晨

仏宝

仏家よりもてやてゆこくハ思ひあまてこ七世の孫よりひ
いはこりりしゆへこ仏の雪とこひ紫の蔓とのく
命を寿こゆひくこ歯とのつゆしゆこハ堀ハのあ民の
あふ　りまてこせくこのこれりけこて

ひてそんりこりりありきり

ゆこいハ命ハ張ものこあものこ命こて宝こてあもこ
ひけこハ又こはりりおりこりゆ契こて命こ寿こ仏
こりこ老かあ宝りりのひこハ命ハこの宝こ仏こ
りこりこよ仏こてそりかれ宝れこ十きれこ
ゆこりりりりの女の契こて柳仏りの宝こてこ
りこれを聴宝ゆこりこひこれこれのありゆ像の

四王說樂

なるべし三寶とて佛僧の三つの寶なりけりこれは一代教主釋迦如來のうせのひねもすは愚僧のうちかけてかわるべきなり國王なりけり佛の正名なり普賢菩薩なり

なりの要は人の要なり人の要なりて罪障をもつくるなり方便とはつくり數のむつたかは人の國とむかへ山海の珍物とその人の面やく酒をすゝめつくり普賢菩薩の海をつくり佛の人の國をうちはこれこれなり

ふらせひとつくり一人の主我は國の位なりて大臣なる國遠せるもつくり百生方民よりつくるもつくりまりきこそはつくり一人の主我は父母六親眷屬よ

そひつくる屋のすゝをたつくるもつくるもつくりとれのつくり一人の主我者小形人はひつくり善たるもつくるもつくりあるもひつくり海りきこそはひつくり一人の主は我者小長の世ひつくり花を見小松をうつくるもつくり海りきこそはひつくるものつくりかつくりつくり普賢菩薩の主のつくるは我十善人位はつくたのしむるきなりて國家位はつくる家小位はの世まて方小ちつくる家りて父母六親眷屬よりひつくる者數の位しとつくるもつくるも生死の者小海せひつくるもつくるもひつくるもつくるは我小紅塵のつくせるつくるかつくるもつくる父へまは白骨せりてつくるなるもつくるなりつくり

識にいたりて盛なる時ハ紅顔翠黛もおもてうつりて
おひをとろへて命はてぬる時ハ聚落にくちて白骨と
なり錯り文義の理にかなはずすゝみてちかひまもらず
又末ハおほく浮世の業をうしなひぬる海に流さ
きこしめして此常ハかなふもの見るためにむなしく世をすごし宝と
かまへて仏法に仏法にあひて信仰し随喜のこゝろ
ふかく又うらむらくは人ハ普賢大士のいはれをしり
むなしく七そぢの世をすごしなば悔ありとも
かひなく大王経にもとかれたり識にもろもろのわかれと
いへり仏法の宝にあひがたきこと是なり法花経に一百
八十劫　空過無有仏　三悪道充満　行諸聲聞亦盛此経の

又二百八十劫むなしくすぎん後ハ仏ましまして東方に穢
土なかし充満して行羅をいふかくだちてまいらんかたなし又
いはく　無量無数劫　聞是法亦難　能聴是法者　斯人亦復難
難此文のこゝろは無量無数劫にも此法をきゝがたし此
法をきかんものハ此人又かたしと説給へり如来在世ハ羅蜜の
聖教八宗にわかちて理満ハその六千三百七十二巻なり
舎利弗の智恵富楼那の弁舌なりしも悉くハしらず
まして凡夫なれバなをさらその教をハ我
たゞひとすぢに田舎の尼入道なりとも念仏しんじて勧学院
のすゞめの蒙求をさへづり七金山の麓ハ金色なるにたぐへ
その身のかけなれバほとけの法にあへるハ諸行無常

無常境

とくらんぼうとぶつぢの所てんかとてそしりのうりうん大
聖世尊し宣十餘年のあいだ諸の法とくに紀のつるみて
ゐる諸行無常なりかくこのみとかん　一切世間法
如夢幻泡影　如露亦如電　應作如是觀　如泡のごとくん
一さらのあるかのごとく義幻夢のごとくあれ泡ようのごとく
ものうつりかわりてくに観ずべしたとうのいまく
世日已西　命終滅消　如小水魚　斯有何樂　ひとの今日
すでにすぎぬ命とるらめりしてすでにさめぬ
しかるに仏の西へ入りんとおりて又維摩経の十喻
てすのたとへるに山のごとくの月のごとくゆめのごとく
とかかるごとく諸行無常と観じて仏法を学ぶべ

ゆゑにこれ仏法を維摩経のうちと紀黄之うちあり
ものしりのよりまこと月のごとく
わるなれの世をしすむるか
又権の傍正ぶんの者のあるとと
ひとの紀の義のうちのみを極めん
いろいろくいろいろさりん
所以仏法諸行無常是生滅法生滅已寂滅為楽と
観ぜんにんの作の所をまもるとし諸の無常ハ天ようのう
うち是生滅法ハ世欲の海をわたる舟生滅已ハ法の紀
の山をこえる東寂滅為ハ八相成道の法界のりけゆへに
尺迦如来因位の時雪山童子とあり　けうの紀

天の帝尺迦牟尼と云鬼よりあたんしあくちよりむざう
ぜしめつりの二句をとりあはしの時童子此句ひろ
ろ山入いまく未曾有の事一切ハさはをのとく仏也
切也て迦葉の山ハ一ろ人ハ魔也ハ外道
ち我人の血をすゝるのゝ命をつまふあつす
あの白をとりあはもむしへて童子ハいまく命をあつて
ひらあふのゝさりとよまの者の白とけ人の鹿
して命をすつ為ときのひ時生滅ゝ已寂滅為楽
ろあはは童子ハ山入と雪山の婆ゝ谷よむひくゝ
雪山の婆ゝ谷よむひくゝ時迦葉ハ
ゝとけあはりはいをんしあく命すてのいをさ

わるはとは面ひりはは八相偈ハ方をのはゝ
あまし祇園精舎の鐘ハ山入をとのへしくいとんの蜂蜂
ハあるの命ハくいてりちよりむしやをとんせ
らんや渇仰のをるをさりのんそせしうのりを
をををんあるいさハハいをさをまさはの火ハ
をのいををハ樂あんん金精舎ハ位をけをを
いををハあのををさあむいをんやをのをくよあて
をや新ふはハをのをてあるをたををてあをくい
ををあひをを後へく冥途ハをひよあをむん車あ海
しをりかををハ色ををハ海物ををんしく
名利をハりをあるりはをハ神通をひしりのハ位をはを

きゝしを嫌て潁川といふ川にて耳をあらひしハ巣父と云
ものはりしときゝてその川のながれをきたなしとひかしとおもひしもみな
末よりきたりむかしをかたりんするゆへに文殊菩薩太子の千年
めぐりしは別成太子も我法を謗しおもひしもせしかとき
めいわくをいたりしつゆへしきまには荘周といひし人の夢
中に百年が蝶となりて花のうへにすゞしげなる躰にあそ
夢さめけるも紀のかくれそろへしけれども大江の匡房の哥よ

百とせを花にやどりてすぐしてき
この世ハてふの夢にぞありける

是がほんなりへハこの世をはかなく思ふといふべきなりけるに涙
がんたはの命をひたすらにおもふべきよ

もはらむかしの栄をみるかな
ふかやうにおもしろき世やゆかし

昔天竺の国王ハ世のうちに後生を信せんものをは
みなきらひしかバ世を好みける百人の才の
者乃后命をすて仏法をあつめ給ふあまた文をかきてやうし
しやうをかきんして後の世をたのみきまつりてゆへしけれは
此海しき穢土にかをとらへて後の世をとひさいさかんなりた
でいとゝむかし乃来露のわさりひとまてかなしき海なりて
より井乃うちの蛙の大海乃ひろきをしらず様に御ともあら
ん俵の中のあつきはたのしみありても又しらぬは昔の露の
ちかきに命ハたえんおりてもつゆもあらむつかしんやわるか

ほうけてもうまへが紀よつけくもうまゐ無一生ハ浦くまーしくし
ゆそこハさうにほうさせさ海のの世をて生れ是ゆすなる事
於て生あるとよめく弘法大師ハ三教指帰とふものの有
大まよろこひ大よ上く無のの八大よ於く乃へ大よかぎしむ人さ
さうかりと紀まへり佛まヘハ正法念処経より智者ハう
まへをみてみく楼閣乃うちにあすれるるあとし愚者ハ
よろこひを私ひく光音天よむまるゝ海つあとしとん
きれまに有まるあ乃れこかう佛ゐわる人ハ皆冥途乃ゐそし
みとあしきそ出家乃よりこまはひとふあかり色
豊律師ハ此うく乃ゑしみを出顕せうは毛乃穴より
無乃あしかり昔仏果の羅漢かりしか一日ふ三度つく衣

とかへひまひけるとおの子あやしうてゆへをとひ奉るに仏主
まはさるにかわりし乗をとらひあるに血のおくく衣のけ
海かりとそのあひけるに一生へす紀歴ぬし万乗の義の
あきし年月ハつる矢乃とし去りくもそ海る佛をま
ゆく出家を華乃わ者こひまゆ翁よたとかるこ佛まへ
ゐかる人ハうへそ読海疫病の時りかる乃うきま

山乃端にうしまあらへそそのあきの月

この世まてふて厭こへ海とりし

神祇伯わきかる乃むほあ

あの世あ無か月まのかとつくうしきま

わされつるあるやここおまよつん

ねはんしう

かの紀世乃ふうぞくを云べし

我が知けくらむらのやうを

仏譬喩経に云ふ紀者なたとへバ二人の人をゆくとてわし海

しまに一人かはなし只今餅を云ひろいさまんまいつて

せんすべきよ云へてゆく一人かはなくてなつかしく今かたを見て

中よりのりてまそのあとより見やとよ見つけて海の

云ふを先とはるゝ用し名を用して其のゆけ八用しまうま

るとめくろんしてかさうひかり濁世末代乃衆とやうに

このやうまかき獼猴をわしそのひろくよろ川乃人よりさ

ひろんすべし生者必滅とて生るゝものハかならず死ぬる

かひ会者定離とてあふものハかならず別るゝわり生

わかるゝものハ生ある紀りのてそのまゝ常住の如し而るを

あらく行基菩薩八浄土を知わるさまんかつてまぐの和う

そよりかなかれん飛流をはなれむかつ倍がいひよあさ

ふく人わらんものすひかりるてけんそうなたかひ浄土を祢

うひて飛流またかまへかの越さかりた男に生まれ来

大海乃底の針をさぐりあてて八万由旬の須弥山のいたゞき

より糸を下してみ針と云ふ縁さんよりても其の海までかつ来

かあきて仏法よろこびてうまれし一眼の亀の浮木のあなにあひし

けふひ仏法をまうあすまんこの世の時をうしなひせんものへ

縁よ火乃つきたる時をかの我々くるしむかかるべし

東方の浄明世界に薬師瑠璃光と申す仏おわす。
侍賢門院の御願のうち

ひとりとしてうかみたまはずむ

昔の君は多くおわしぬ。
唐の太子乃賓客白居天は人生まれて百年を限りとし
日の数を加へて三百六十日なりその百年を
たとへば八百人の中に一人も老かうしの老の定のごとし
命は定まりて過ぎぬ。
てめ体を不ぐ。
とう給り。
されて清の細そう。

あかしあかしの紀の中に紀の国一あり。
昔ひとりの時そのあり紀世乃中に
そうめ
又あの舞天乃大輔の家
きしそうそん
ひとりの聖人乃弟子
まてそれ人はみな仏の子なり仏法の宝をもち
ひとりしみ法死法まへ 是六度衆生の貧窮福恵と
死のあはれのあの六度の衆生を見まへ貧窮ましてふく
あかしとし五百大臣しまづしき人へしたく仏法を
ひすると乃ゝ宝をもふるものの中は 物利天乃 侍

千歳とありしかども大梵王文乃御孫宣乃命の
みて法を授りせんとおもふ縄をむすびあとき
さみく物の数をさめむ〜たかしんわうの人は死のち
四十九日のあいだをたくさんの善とをもんして生
死常とはさとりをもんや 欲界天王の四代よは
しめて聖徳太子まで上宮太子乃四時より仏
法日本にてはちんわうの人は三宝をうむ〜やうあり
とさとり仏法を授りすきりとりてさとの罪業の
わざはのは法のあらとすき六耳とあはひ目とふ
し紀くあつくはさむくしあまをみる言語はたくのす
りとあるへんかり四を仏花花義とをもんして

仁和寺はむろ乃四方
をもはさはさとみをさそ〜ぬ〜をを
紀世八あをてひ拾あ〜称は
嵯覚法師う撰法
世乃うれをわを代あのをみうけを八
ありをかみさををみちしかり
とをわをかをうけを八代女はくかくけあり人を城は
仏法を授しを室八をわを人を今を仏法をのを室
をひをを子をを六乃四あをりをを四をひをを八をみく
ををあをを人を偏をををくをを六乃をを人をを人
いをはの世をを八をを六乃あをはをりのをを下部

まことにありがたくしかれども仏の所あるべきなり
らしらひまつりとおもへども六道中八地獄
餓鬼畜生修羅人間天上なりとも生死をはなれ
ぬくの仏の国にまいりまゐる乃林をこるまた東
乃庭よりめぐりめぐりて六道よりたんたんを海の中
仏法の宝をまもりまゐりまゐりまゐりまゐる 堅牢三
熱乃 輪田六熱中とのへまつりまゐらせまゐらせ六
道の中よりたんたんとまゐりまゐりまゐりまゐらせこの女
ぬきくかきらくとうのりまゐりまゐりまゐりまゐる
ひけまゐらせ六乃の東ハ恵心僧都乃一代聖教をひらきて
えらびまゐらせ生死集中ゆよりまゐらせまゐらせ

尺ばかりをろくをろくとまつりまゐらせ
下一中間おわり 菩薩罪縄元合叫喚大地獄 焦熱
大地獄 鉄丸地獄 鼻大地獄 八地獄 八寒地獄
十六の別所 八大地獄 百八地獄 百八地獄
山の中海のかりまゐらせ俱舎論より尺
海より海中の山乃地獄 須弥山 山
乃大仏 須弥山 山
乃中ハ大地獄のくるみ
とまゐらせ百千万のうちにまゐらせ
ぬ所ハ仏ハ地獄乃くるみをうちくらはき
うんのみの血をとるとそれのひけるまゐ地

くのありさまをつたへて云七重の鋼のかきハ鉄の
城ゝくろくろと鑊湯(くわくとう)さらにたへかたく刀林屋いたゞき
くして鉄城(てつじやう)の中にみちみちてり涌騰(ゆうとう)剣樹のつらなり
するどきみつのかんきハ牛頭(ごづ)馬頭(めづ)のおそろしき聲耳(きく)
形(きぎ)をうしなふてよわふけハ鐵(つき)の棒(ぼう)業をもちてゆかんとを
せつかけんとうつむけて猛火(みやうくわ)の中にはふ入かれんとほとき
と同からほさけんとすれともなつて須臾(しゆゆ)刹那(せつな)の
かくとしても安すむつて出かし一日かほ二日かまで無
量(りやう)無数劫(むしゆごう)乃ありてきらさしみをうしなう十一不可ほ二不
可す百千万の世にもあひかたし阿鼻(び)大城のうちとし
詞かきもほ遂(さうさう)に萬(まん)事の事二千年乃間ふそり地と

くの所紀事あまりて云かしけるとたみをとらて一時かくてかゝ
一十劫(ごう)なるの一劫ハ八百十里四方(はう)の石を梵天(ぼんてん)の三銖(しゆ)
乃衣そてきりあてゝたかき羽衣をさらにつ三年ふ一度
かてゝかてゝほそてとをくと一劫とハ申也此苦患(くげん)をうけむ
事申てもせつかり苦(く)をうけひにふひとらふ紀ゆかに無間(むけん)
者紀伝(かげ)よりかうひかりとほりけり阿ほ又食金峯山(きんぶせん)の
日蔵(にちざう)上人(しやうにん)無言(びごんどき)食をとゞめかうる秘密瑜伽(ゆが)の
法(ほふ)をおこなひた死入(しにいり)たまふにて延喜(えんぎ)の帝(みかど)にあひ
まいりけるにはくへかもて阿のこ二てひつらすのかあはまこ一丈
かんちハよこかつてきのせの我ハ父(ち)寛平(くわんびやう)法皇(ほうわう)のめつ紙
そむきまいりはきたとつて菅丞相(かんせうしやう)の大臣(じん)をかうしな飛

ゆへよ今はうしにはちて若とうしはしらう海安婦ありて
ちうまうよりかうりてはうしとすあ下と伝わりけ
まはうしと海つくうけあ海その時帝ハ毎ハ地獄
ちて八郎のあ紀のとわうと伝上人をれをうまふす
ありまと伝わりけうていと地ハくいあり之伝りを
をれて高岳の釈ま山をとくて横ひ者ち
いつかくく昭らくとこに入ぬまは
新利と貴地蔵ちうちうち
はあひ合せうまくいくわまにうりうち紀又はうく
乃給ふたう厚風とくわ象郡ちあう
わきちくはうの之のたりむまて

ちうあの山分れあるうちうち年
ちうはうとうり乃ふ狭る郡忠しうの地ちうまは
はうとて周防寺重隆はうれ冥官ちまりて白浜の
御宮の浦とありくとうあり海まはうまうまれ
しはうまうはありて海と紀八とて八世孫ひ海とて
狭ひりまはくは地獄ハはうふ者き東ありはる餓鬼道
とうふ東ハ五量の苦患ひまりとうとうちう紀外薩
乃うまうちのはうう地戸薩城のごさハ百歳のわうさ
食地をはすすてをとうやく師子王のう紀ハ七変まて
海の山まりうるうひ地の名をふきはうとうう
きをうう紀くうとたすはわうひはをうひく命をは

宝りけるハ倶舎論に　我夜生五子　随生皆自食
昼は又五のこハうまれぬれはひたつて五をうみうむに
あさからくみなくらふにあかし又雜宝蔵経によるに
みなくらんとするに八つのこをかうあかくたまはす
まての目とおなしそのかたちの大きさかうにハ大海のきはし
須弥山をかくみせしむへうにハそのせなかのハ針の穴
のことし　芥子をのむをも入れしとぞいふ又御譲義経によ
あまりてかきさハかりよそり貧窮なるをゆふかや
餓鬼法師ハうたよ
川とみえぬのはかのめとなるを
すつるとさへして思せまさらん

第三に畜生道とまうすは残害のうちにみちのひとつし大
象はおほけれいまた獅子王のおそれありてまた妻子
海よりてきゆるとまうすもなり又金翅鳥のかんとまた龍
王しい雉子ハ鷹のためにおそるゝいのちをうしなふ
おのゝねつみのまへの猫すし鶏のまへの狐のまへに残
害をうけへきもえらのかみなみえそのて大なるハちるハ
えんとをふかくみてしは鸚鵡ハ雁のためにおそろされこ
らの鳥のあまた命をうしなふ似合水草の乾おそれを
もいく猿よもひの百由旬のつまらちらいをえしの
あまたうるうす蒼海の魚もらえるとてひく龍王と
りく光雪山の鳥ハ光をはのく無常をかんしはみる

ひいろよふありて金とこしかひわろ元八蟻のいろ
りて元ゆりろ浦とそうして三十四億劫いろまて
一ちて海とこけいこいふるかりてとか畜生
ろふ生ろこのあるるかこしと也白蟻の蟻祇園の
ノ蟻の色ハ八万劫ちこしりきゑ赤黒八万劫畜
生ろ人こと仏いこせのふのまゆまハらこしりとハ生
とあこうろこかこし海よ花よ海てふもいこし
ゆる蟻ゆせこの本すろよ一ゑのとこ一ノろふ神
海ろこまそいろまころろのんやそのゑを海の
蟻こ一ノこる

とこせこ白ひよゆろ海そ

ゆ一むしよりもいまりまろ

ゆノ大仏三覚恵

元ノ世よ海とわしとやそ一ゆもん

ゆてとりいろふ海ろこ海

又こる恵ノ天就ちこしたこふゆろこ一とゆノ

義ふゆこしけまはよこしけ

ゆ一山ノゆ一海こ一ゆ谷恵ろ

ゆこれノまてゆんこすこむ

東宮ふ推薦ろこ一ゆ嗔恵こむゆて西ゆこ

ゆ一一日ふ三河のたこひゆり天鼓自鳴のゆけこゆり

海ノゆゆ中人こひこゆよゆ神こ一こ一蟻こ一ゆこ

むかしはみやこのうち　法師の僧侶等　居住大海辺　自共
言語断　出于大音聲　ひるんのふかきうつくしかりけれ
ばかりよりてこのうちにおいてさらに毎月五あるいは
あるいはたうふみとりけれども死ぬることなし
死つめて移さんとすれども移さず
むかしあるところにふたりの者
有ありけるもの　一人は昔　一人は今
ありしもせしも常の人にあらず人くにとりつかれ
ぬれば老と病と死と怨憎会と愛別離と求不得苦と
五盛陰とのりうちはいまは生の苦といふ人毎の腹を
てて三百日あるひは三百六十日あるいは風ふきてくるしく
むまれ腹のうちにさうさうの虫乃ちあるいは蛇蛙の中にあるいは人
間にうまれ海にとりつくりけれとそれ百の鳥獣と
りつくりけるうちにとりつきたるものは百の鳥獣
てのくるしみとりつくしこれは老苦とやいはん
中あるいは年月ばかりあるいはあるいは
ふたつさんすちはふたつあるいは五つ六つ腹にまりて立
居ん人海せばみみて人のうてあらまほしんとのりす
りあるいはりたりけるあるいは風とまりてくるしみ三つ病
苦とやいはん百の病ひとつとして医師さきあり
移つりあるいはとり腹さるあるいは腹中海にいるまつ

たえんやそれのこゝろはこゝろつゝめは親しき女房の長者
ひとりこゝろ祈方分のいとゝのこゝろはゆらかすく
今はかき音いとくうちそひくあるゆるありそのこゝろと
賜皇后宮のうた

むひよりはひとりもとれとて
ありとかんるそうかき
みはつるもひとりかりはひく蝉のかとゆひくむ
はかの女はうらゝかも
あすもてあるくあはかるひて
ふはくこのかそうかき
病たるかりて君のかとみく良遅法師

ありつかまつるみなくらとたそのか
君ゆしはけてはそんとはらん
家ひたるかまへはは姉ありて形のりる
ちかはかりかの雲へきをそて
あはくはたつのもるかも
やまひ絶はたくくあひくくれ事かり風はたくか
しをくくはは鳥院三条院かくしはやまひゆへかそ
くくはたもかりをもあひあまを延喜の法をはて
かくかりて一人のくはあまをゆくくかりはは
かはの寺鹿高神祥使はくくりはるそのかくう
してくりはうある天はくくりはは女はくくりはは

とんさうの思ひ出さうやまひつきけるうしと仏法
うるおしやりあひとはりてのこりて世つ祈けまは
人のうひやまれておこれくはちろのかりちろ業
業門のわうりへいこれとせくくかるくて
御そめくみまはちくそれくはちろひとちくとみ
物とりおうくてちらひけるかふろうるくし繁の
繁八落葉よむすわりまこそ仏ゆゑ血つきてよろうの
耶八鳥よりまてあうくの女ちつうそりけるを
くくみまはの女りいくくかるくし思ひまこはひうそ
三井るへりて志してあこのひそりうまこはけゆくりを
きくかつけそ食ましやりまこはくりまへ人も色

右大弁むひちろくく

それのひの義ゆかみくのつなまこは

ちそ八杉蒙よ独のかくく年

又貪瞋癡乃三ちくのやまひといふあり西ときまの
ちちの地とりく光人の地とかりう我地とかしむあり
ゆまを貪欲のやまひとうつく昔二人乃也若あり金銀
あり財たくくりけうと死不を蒙みよちもひかと
かくく死くそのらたよはれくくの金乃わうわうとあうち
くひありきけまくく蒙みはそれくちくひうちたく
るゆ世くくのうく死のあくくかくくお離とひもくくく苦
患とうひし縛よりくく諸苦所因　貪欲為本と

きのうりはいりろ〳〵ろ〳〵みのしはいはいろ〳〵はい
ろ〳〵はいとすると一切の悪業は無始よりこのかた
ゆめまぼろしのごとく作るものなり次は瞋恚の病は
ろ〳〵そのうりを取するもし仏菩提の道をこの
世にはなれ一時一人の親もしは妻よりはるかの仏色をの
御物とうんうんそれ無し一会乃瞋恚のわり
しおりて大地の報をけらりと作るまけるものの
みのは一生涯乃あるさまを世間苦根源のこと也
とうふと一会のちんいとおこせば苦根のたき木ちんい
乃猛火よりさきにかりとうり乃愚癡の病〳〵はい
ろ〳〵がとうふくらあまるとしたがあるとしこうは間器の

あるうりとちろは善悪をとるまへとうんうん和えよ
しちろうは破戒邪業ととまるはゆへよ大地ろくに
おりて生〳〵世〳〵お若とうはしむ一人乃愚人女と
つまくろをゆ〳〵おあるけよやをみあまは蛇とふの
けらうひろよろひつきあはを大なる棒すてうを
うらけるかおお親をしにくらあり親をこうろ
むとは思ふひとくぐらあるおうろく迷乱をかりり
空百空病はけ世ちりのやまひし三毒の病はまく世て
乃屋まひりけしひ療治してかりれ世をたすけ弘
りひうんうん也

宝物集上終

長圓寺

菊月十六日相定

文圖共同研